

「消費税増税」この言葉を最近よくニュースやネット、新聞などで目にする。これは、二〇一九年十月に消費税率が八パーセントから十パーセントに引き上げられるかららしい。私はそれを聞いて、正直嫌だなあと思った。また金欠になってしまふ、その程度にしか考えていなかった。でも、この作文を書くにあたって、「そもそも何故消費税は導入され、増税されていくのだろう」という疑問が湧いてきた。消費税率が上がることのメリットとは何なのだろう。

調べてみると、財務省のホームページに行き着いた。そこには、「少子高齢化による医療や介護などの社会保障コストが高くなっていること」が理由として挙げられていた。「少子高齢化」最近公民の授業でも出てきた単語だ。年々この言葉が身近になってきているのは知っていたが、国全体に関わる消費税にも影響を及ぼしていることは初めて知ったので、とても驚いた。

今年の「増税」の理由については分かったが、そもそも「導入」されたのは一体いつ頃のことか、なぜなのか。こちらも調べてみると、一九八八年には消費税法というのが成立していたようである。翌年四月には実際に施行され、その時の税率は三パーセントだったことが分かった。一九八九年といえば、両親もまだ小学生の頃だ。意外にも前から存在していることを知り、歴史があることを知った。一九九七年には五パーセント、二〇一四年には現在と同じ八パーセントにまで引き上げられていることが分かった。思っていたより前から存在していた消費税は、少子高齢化などをはじめとする時代背景に合わせて適した額に設定されているんだなと思った。

日本の昔の税金は、主に所得税で納められていた。が、経済や社会の構造が変化していくにつれて均衡が保たれなくなったのを解決する目的があったようだ。また、所得税を納税している世代の中心は二十歳〜六十四歳となっていて、この世代に負担がかかってくることを防ぐためでもあったと知った。

調べてみると、「単純に国の資金が足りないから」だけでなく、いろいろな理由で、国がいろいろよく考えた結果導入されたことがわかる。「増税」というと、やはりいいイメージを持つ人は少ないと思うが、それは国民の生活、時代の問題に合わせて必要な分だけ設定されている。その使い道も国民の生活の為である。昨年も、その前も税の作文について書いたのでもう調べることはないと思っていました。それでもまだ知らないことはあるんだと思った。悪いイメージだけでなく、その真の理由や使い道を多くの人が知って、税への抵抗を減らすことが大事だと思った。